

生体腎移植でのHCV抗体陽性レシピエントにおける 腎生着率と生存率の検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田端, 秀日朗 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/30337

主論文の要約

生体腎移植での HCV 抗体陽性レシピエントにおける腎生着率と生存率の検討

東京女子医科大学第四内科学教室

(主任：新田孝作教授)

田端 秀日朗

透析会誌 第 45 巻 第 12 号 1147 頁～1153 頁

(平成 24 年 12 月 28 日発行) に掲載

【目的】

本邦での腎移植実施症例数は年々増加傾向であり、約 80% が生体腎移植である。海外の報告では、HCV 抗体陽性透析患者が腎移植を施行した場合、HCV 陰性レシピエントと比較し、移植後糖尿病の発症が高率であること、移植腎生着率が低下すること、生存率が低下すること等が判明している。しかし、海外報告の多くが死体腎移植であり、わが国で主流の生体腎移植と HCV 感染の関係は明らかでない。今回我々は、生体腎移植レシピエントを対象とし、HCV 抗体陰性患者と HCV 抗体陽性患者での腎生着率と生存率を検討した。

【対象および方法】

対象は、1990 年 1 月から 2009 年 12 月に東京女子医科大学泌尿器科で生体腎移植を施行した全患者 964 名である。HCV 抗体陰性患者 914 名（男性 583 名，女性 331 名）と HCV 抗体陽性患者 50 名（男性 34 名，女性 16 名）の 2 群に分け、腎生着率および生存率を比較した。HCV 陰性患者と HCV 抗体陽性患者の背景の偏りを調整するため、多重ロジスティックモデルによるプロペンシティ・スコアマッチング法を使用し、マッチングの変数は、透析期間と免疫抑制剤を選択した。

【結果】

2 群間での移植腎生着率を比較すると、HCV 抗体陰性群 (%) vs. HCV 抗体

陽性群 (%) で、36 か月後 93.6vs. 83.5, 60 か月後 88.4vs. 71.8, 120 か月後 75.6vs. 51.3 と HCV 抗体陽性群の生着率は経年的に有意に低下した (log-rank test $p < 0.001$). 2 群間での生存率を比較すると、HCV 抗体陰性群 (%) vs. HCV 抗体陽性群 (%) で、36 か月後 98.3vs. 94.0, 60 か月後 97.3vs. 89.3, 120 か月後 93.7vs. 81.3 と HCV 抗体陽性群の生存率は経年的に有意に低下した (log-rank test $p < 0.001$).

【考 察】

本研究は、生体腎移植患者を対象とし、HCV 抗体陰性患者と HCV 抗体陽性患者の腎生着率および生存率を比較した、初めての大規模な観察研究である。HCV 抗体陰性患者に比し HCV 抗体陽性患者では、腎生着率が低下し生存率も低下することが明らかとなった。腎生着率が低下する原因として、HCV 抗体陽性群では慢性拒絶反応や移植後腎炎の割合が高いこと、移植後糖尿病の発症率が高率であったことがあげられる。したがって、移植前のインターフェロン治療が慢性拒絶反応を抑制し、移植腎生着率の向上に寄与すると考えられる。また、HCV 感染患者における移植後の耐糖能障害や糖尿病の発症が、移植腎生着率および生存率に関与している可能性が高く、移植前のインターフェロン療法が必要であると考えられた。本研究の限界として、肝不全による死亡を調査対象としておらず、肝不全死が生命予後に影響したかどうか不明である。

【結 論】

HCV 抗体陰性患者と比較し HCV 抗体陽性患者では、腎生着率が低下し生存率も低下する。HCV 感染腎移植待機患者は、移植前の積極的な IFN 療法が必要と考えられた。